



水の宝清寺



宝清寺の境内には、毎年沢山の花が咲きます。
第六十一号より新聞裏面に宝清寺で見られる草花を紹介しています。

秋のお彼岸が近づきました。春・秋のお彼岸やお施餓鬼・埋葬・年回・お会式にはお塔婆を建てるのが習慣になっています。

秋のお彼岸

九月二十四(火)～二十六(月)

お塔婆の申込は同封のしがきをご利用になり早めにお願い致します。

三月十一日の地震・津波・原発事故の災害から、考えさせられることが多い毎日です。今回の震災が戦後最大の国難とまで言われていることを踏まえ、連日報道されている視点とは別に、僧侶の立場から、今回の震災は「神の啓示」ではないかと思われるなりません。

現代社会は多くの問題を抱えています。その背景を考えてみると、現代日本はヨーロッパの近代思想が持ち込んだ「個人主義」というものが、しばしば「エゴイズム」の形をもつてあらわれ、経済の成長と相まって、我々は、日常生活で競争することを強いられています。反対に我々は、日本的な従来の生活を不合理・非科学的で、前近代的だとするような誤解が蔓延し、退けきた傾向が極めて強いように思います。

日蓮聖人 遺訓(二一七)

「我れ日本の柱とならむ」

我れ日本の眼目とならむ

我れ日本の大船とならむ

(開目抄)

柱がなければ家は建たず、目がなければ見えず、船がなければ海は渡れない。それぞれの立場で、頼りになる人になるよう努めることが必要だ。

その結果として、現代人はややもすれば、利己的で自分勝手な依存心が強く、「おごり」すら感じられる傾向を持つ人が多くなり、地に足がついた生活をしていないのではないかと考えられます。

政府の復旧・復興の対応が遅れる中、忘れられていた様々な事に気づかされた人も多いと思います。
日本人は昔から家を大切にし、地域の間関係に重きを置いてきました。しかし、近年、その家族の関係が希薄になつてきています。今回の原発による東京電力の計画停電や節電の中、それぞれの部屋で過ごしていたバラバラの家族が、一つの部屋に集まり食事をしたりテレビを見たり、忘れていた「家族の団欒の良さ」を感じた人も多かったようです。

涼をとる方法として、昔行われていた、「打ち水」や「すだれ」などを生活に取り入れる人も増えているようです。
また、日本の場合には義理人情や年中行事などによって、「社会共同意識」を育て、人間関係を支えてきましたが、震災以後、ボランティアを含めて「他の人を気遣う」地域のコミニティーが重視されてきたと感じられることは、大変良い事だと思います。
日本には昔「村八分」という制度がありましたが、それは著しい被害を及ぼすような村人を絶縁して孤立させるという、もつとも悪い習慣だと言われていますが、それは一方的な解釈で、「村八分」の断絶は村人たちの人間関係を「十分」(出産・成人・結婚・葬式・法事・病氣・火事・水害・旅立ち・普請)と考えて、その内の「八分」を断絶し、「二分」(葬式・火事)の交際は残すことを意味しています。
つまり、絶縁しても悲しい出来事は分かち合うというのが「村八分」なのです。「村

住職の口法話(第二十七)

伊良部秀輝が自殺し、衝撃を受けた方も多しと思えます。どのような事情があったかは分かりませんが、

ご冥福をお祈り致します。ここ数年、自殺者の数が三万人を越えているようですし、その前段階とも言える「うつ病」を持つた人は、十人に一人とも言われています。我々を取り巻く社会的環境に適応できないで、「うつ病」になるものと思われまが、精神的傷害は昔からありました。明治の頃、「森田診療所」という精神病院の森田先生は患者への治療の一環として、患者さんとお風呂に入つて患者さんに背中を流してもらい、背中を流し終わった後、森田先生は患者さんに、「ありがとう」と言ったそうです。先生から「ありがとう」と言われた患者さんは、「自分も人の役に立った」との自信から回復していったそうです。
家族・親戚・隣近所・町など、自分を取り巻く環境の人間関係の発想の根底には、「人間は助け合っていないと生きていけない」とい「社会共同意識」を持つていければ、「うつ傾向」を持った人も自殺者も減っていくのではないかと考えられます。現代人は、いろいろなものを求めすぎると、「甘え」を持っているのではないかと考えられます。自分の出来ないことやしたくないことを年のせいや、病気のせいにしてしまっているのか。哲学者小林秀雄は、「年齢は若くても現状に満足して向上心を持たない者は若年寄りである。年をとった人でも自分の出来る範囲で向上心をもって人は永遠の青年である」と記しています。現状に満足せず、年齢に関係なく今まで出来なかったことや新しい事を生活に取り入れることが健康と若さの秘訣ではないでしょうか。

お彼岸に供養の功德

秋のお彼岸が近づきました。春・秋のお彼岸やお施餓鬼・埋葬・年回・お会式にはお塔婆を建てるのが習慣になっています。

塔婆とは、「天と地を結ぶ」という意味があります。「天と地」とは、即ち、「来世と現世」のことです。仏典にも、「塔を建て供養すべし」とあるように、その功德は計り知れないほど大きいとされています。塔婆の始まりはお釈迦様のご遺骨を納めるために鉢を伏せたように土を高く盛つたものでした。この塔を中心に仏教運動が広がり、仏教がインドから中国に伝わり、塔の形も様々な変化を遂げました。
特に、日本では五重塔や三重塔という、優美な建築物に変貌を遂げたのです。

また、墓地で見かける五輪塔は板塔婆の原型とされています。板塔婆は亡き人、個人個人に対して一本ずつ建てるのが原則とされています。墓地に建てられているたくさんの板塔婆は故人のために家族・親戚・友人などによって建てられたものです。遺族の守護者でもある、来世の故人に対する現世の人々の想いと感謝の心の結びつきが塔を建てるという形であらわされるのです。それが、追善供養の心なのです。

お彼岸や年回・埋葬・お会式などにお塔婆を建てて、ご先祖に対する感謝の気持ちをあらわしましょう。

お塔婆のお申込は、同封のしがきを利用して、なるべく早めにお願ひ致します。

前号の「たちはな新聞」で紹介した、木造の寺を書き続け、現在、一九〇ヶ寺を描かれた松田静男氏の宝清寺の本堂が絵がきとなりました。関心のある方は管理事務所にお申し出ください。原画の複製品は本堂に展示してありますので御覧下さい。

宝清寺年中行事

三月 彼岸中日・塔婆供養
 四月 八日・花祭り
 七月 十七日・孟蘭盆会供養
 七月 十七日・お施餓鬼法要
 九月 彼岸中日・塔婆供養
 十月 十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月 十五日・釈尊涅槃会
 二月 十六日・宗祖降誕会
 四月 八日・釈尊降誕会
 四月 二十八日・立教開宗会
 五月 十二日・伊豆法難会
 五月 十七日・本山御入山
 八月 八日・松葉谷法難会
 九月 十二日・龍口法難会
 九月 十八日・池上御入山
 十一月 十一日・宗祖御会式
 十一月 十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商虫方除星安開
 通繁盛安
 売繁盛祈
 厄位祈
 運産
 守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り(灌仏会)、お盆(孟蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。
 このほかにも諸祈願や自動車のお祝い、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

年末年始のお札

年末のお話しをするのには、少し早い感じがしますが、次号が一月一日号になってしまいますので、ここで年末のお札「お釜縮札」(通称)の頒布についてご案内いたします。

年末に大掃除をするのは、新しい年の神仏をお迎えするためだといわれています。古いお札やお守り類も一年間の感謝をもつてお寺に「納め参り」をして、新しいお札を頂くのが年末年始の大切な行事です。

宝清寺では、年末年始に「お守り札」を頒布しております。ご希望の方は宝清寺寺務所までお申し出ください。

お釜縮札

「お釜縮札」とは、年末にお渡しする数種類のお札の総称です。

台所の守護神(普賢三宝荒神)や不浄な場所を守護する(烏羽沙摩明王)などのことを言います。また、井戸をお持ちの方は、いつも清浄にお守りしていただける札や、しめ縄に付ける幣束もご用意しております。

台所の神様

普賢三宝荒神様は(かまど)の神様と呼ばれ台所をお守りする神様です。台所は火と水を扱う場所ですが、そこから出火し火災になったり、水が濁って病気になるように、三宝荒神様に守ってもらおうと言われています。

廁(お手洗い)の神様

烏羽沙摩明王様は不浄な場所を清浄にして下さる神様です。普段、わたしたちはトイレをなげなく使用していますが、病気によっては排便・排尿ができなくなってしまうこともあります。このようなことがあると大変苦しく、排泄のありがたみを感じるものです。烏羽沙摩明王様は健康の神様とも言えます。

井戸の神様

我々が生活するうえで重要なものとして、飲み水があげられます。最近水道が普及し、井戸水を利用することは少なくなりましたが、あきる野あたりでは水質が良いことより造り酒屋が多くあり、井戸も現役でがんばっているご家庭も多くあります。井戸の神様は俗に龍神様とよばれ、法華経の行者を守護する七面大明神のことを言う場合もあります。

しめ縄の幣束

注連縄の幣束には神道と仏教では意味合いに違いがあり、型も違います。しめ縄は結界(人間界と仏界の境界)を意味し、しめ縄の先は清浄な世界で、不浄なものが入ることができないものとして張ります。その下に垂らす札が幣束です。最近では、量販店で幣束付しめ縄を購入することもできますが、ご希望のかたはご祈禱した幣束を頒布いたします。

仏様の話し

「クリスマスには、大黒様ややって来る」と言うような変な感じがするでしょうか。実は仏教の大黒様とキリスト教のサンタさんは同じ神様と考える人がいます。古代インド語では大黒天を、「マハーカラ」といい、仏教経典では「摩訶迦羅」と表記します。もとはヒンドウ教のシバ神の化身で、財福もたらし、戦勝の神様として崇拝されたようです。

また、大黒という名が「大黒」と変わり、神道では「大黒主尊」という名になりました。

皆さんが知っている大黒天の姿は、打ち出の小槌と大きな袋を持ち、俵に乗り、その回りにネズミがいるといった姿を多く見かけます。サンタクロースは、白いヒゲをたくわえ、白い大きな袋を担ぎ、ソリに乗り、トナカイと共にやってきます。

全く同じではないにしても、その姿に共通性を感じることでしよう。また、サンタクロースが夜にやって来るのに対して、大黒様は闇夜を司どる神様だともいわれています。その他にも共通項はたくさんありますが、この共通性が偶然でしょうか、私には、どうも別の存在とは思えないのです。

洋の東西を問わず、また仏教とキリスト教以外の宗教でも類似性のある神様が多く存在します。そういう意味を知ってか知らずか、日本人はクリスマススを祝う人が多くいます。僧侶の私が言うのもへんですが、そういう所が日本人の良いところなのかもしれません。



お焚き上げのご案内

先にも説明いたしましたように、年末年始には、旧年中にお世話になったお札の抜魂供養をし、お焚き上げいたします。お焚き上げをご希望の方はお札をご持参ください。

宝清寺の草花

よく墓所に「南天」を植えられるのを見かけます。「南天」は「災い転じて福となす」のことわざから、「難を転じる」というゴロ合わせで、人気のある植物なのだと思われがちです。他に紫陽花や沈丁花などを植える方もあります。また、亡くなられた方が生前に好きだった草木を植えるのも良いです。しかし、最近では墓所に植木を植えてはいけないところもあるようです。植木は生き物ですので、根を張り墓所を壊してしまうケースがあるからです。また、石を敷き詰めた墓所では敷石が夏の熱を含み植木を傷めてしまうこともあります。注意して植木をしてください。



発行・水谷山宝清寺
 住所・東京都あきる野市小川一〇一
 電話・042-558-2663
 FAX・042-558-2693
 インターネット・ホームページ
<http://www.ab.auone-net.jp/~houseiji/>
 メールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp